

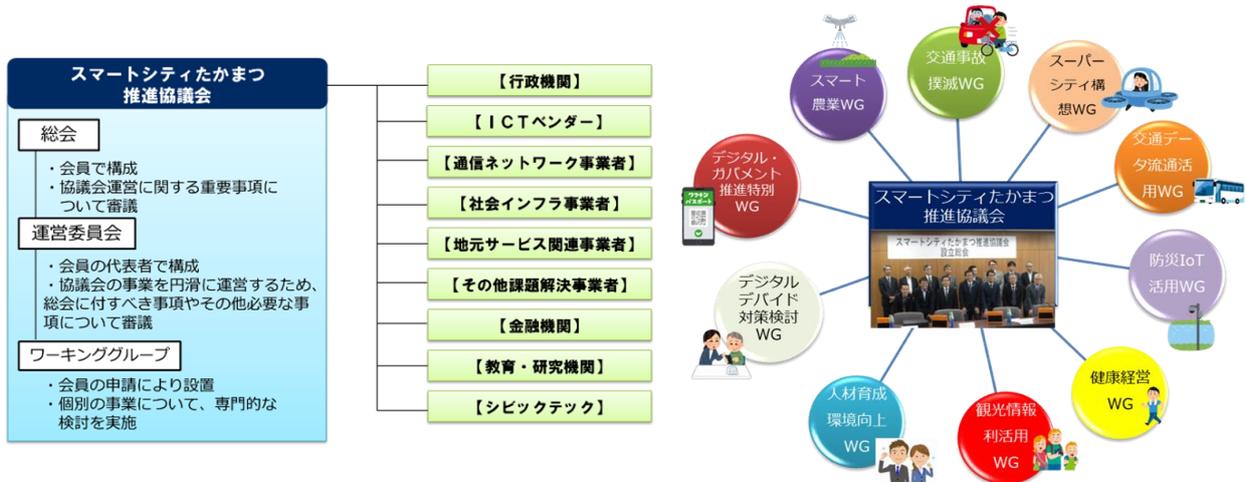
## 付属資料

### スマートシティたかまつ推進協議会について

平成 29 年 10 月に、産学民官の多様な主体の連携を通じて、IoT 共通プラットフォームを活用した、官民データの収集・分析による地域課題の解決を目指し、スマートシティたかまつ推進協議会（会長：高松市長）を設立しました。（会員数：令和 4 年 2 月末現在 128 者）

協議会内に分野ごとにワーキンググループ（WG）を組成し、産学民官が連携して、課題の整理から始め、実証事業を重ねながら、社会実装を目指した取組を進めています。

また、市民参加型のスマートシティを目指し、協議会として、市民向けのシンポジウムや人材育成講座の開催など、普及啓発活動を実施しています。



### 高松 DAPPY について

令和 2 年 11 月に、スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に向けた、本市のスーパーシティ構想を策定するため、前例や現行制度、組織の縦割りにとらわれず、迅速に庁内横断的な検討を行う、高松市スーパーシティ準備チーム（愛称 高松 DAPPY）を職員公募により設置しました。

チームを中心に、事業者や関係課を交え、迅速に検討を行い、提案書を取りまとめた一連の活動は、本市職員の意識改革や人材育成の模範例として、大きな成果を収めたことから、継続的にスマートシティの推進や本市全体のデジタル化を推進していく新たな庁内横断チームである「高松市デジタル特命チーム」を結成し、精力的に活動を展開しています。



Digital Alliance which is Potential, Powerful and Youthful

## 用語集

用語	解説
<b>&lt;英・数&gt;</b>	
AI	Artificial Intelligence の略。「学習」、「認識・理解」、「予測・推論」、「計画・最適化」など、人間の知的活動をコンピュータによって実現するもの。
EBPM	Evidence Based Policy Making の略。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化した上で合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする事。
GIGA スクール（構想）	GIGA は、Global and Innovation Gateway for All の略。1人1台端末と高速大容量の通信環境を一体的に整備し、ICT や先端技術を効果的に教育に活用する構想のこと。
ICT	Information and Communication Technology の略。情報通信技術のこと。
MaaS	Mobility as a Service の略。出発地から目的地までの複数の移動手段等を一つのサービスとしてとらえる概念のこと。
SaaS 型ツール	SaaS（Software as a Service）と呼ばれる、ネットワークを通じて、アプリケーションソフトの機能を顧客の必要に応じて提供する仕組みを活用したツールのこと。
SNS	Social Networking Service の略。インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのこと。
Twitter	個々のユーザーが「ツイート」（tweet）と呼ばれる 140 文字以内の「つぶやき」を投稿し、そのユーザーをフォローしているユーザーが閲覧できるインターネット上のサービスのこと。
UIJ ターン	大都市圏の居住者が地方に移住する形態の総称。U ターンは出身地に戻る形態、I ターンは出身地以外の地域へ移住する形態、J ターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態を指す。
Web 会議	映像と音声の送受信により相手の状態を相互に認識しながら通話を行うことができるシステムを利用して実施する会議のこと。
YouTube	Google が提供するインターネット上の動画視聴・共有サービスのこと。
<b>&lt;あ行&gt;</b>	
アイデアソン/ハッカソン	アイデア(idea)、ハック(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた造語。アイデアソンは、与えられた技術を活用するサービスやアイデアを議論する集まりのこと。ハッカソンは、プログラミングやデザインの経験者が集い、テーマに沿ったアプリケーションやサービスの開発を競う集まりのこと。

アウトソーシング	業務を外部の企業等へ委託すること。
アクセシビリティ	情報やサービス、ソフトウェア等が、どの程度広範な人に利用可能であるかを表す言葉。
アシストスーツ	モーターによるアシストや人工筋肉等による荷重分散効果により、装着することで重量物の持ち上げ・下げ時に腰や腕にかかる負荷を軽減する機器のこと。
アダプティブラーニング	学習データ等を活用した学習状況の「見える化」によって、それぞれの学習者に適した指導や自習が可能となる学び方のこと。
アンダーパス	交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺よりも低くなっている道路のこと。
インセンティブ	人の意欲を引き出すために、外部から与える刺激のこと。行動を促す動機付け、報酬を意味する言葉。
ウェアラブル	眼鏡、カバン、腕時計のように体の一部に装着できること。そのような機能を有する端末（デバイス）をウェアラブル端末という。
オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、誰もが自由に利用（加工、編集、再配布等）できるように公開されたデータのこと。
<b>&lt;か行&gt;</b>	
ガバメントクラウド	情報システムの基盤や機能を提供するため、複数のクラウドサービス（インターネット等のネットワークを経由して、データベースやアプリケーションを利用者に提供するサービスのこと）を組み合わせた共通的な利用環境を国が整備したもの。
キャッシュレス	お札や小銭などの現金の使用を極力少なくすること。クレジットカードや交通系 IC カード、電子マネー、QR コード決済など、現金以外で支払いを行うことを「キャッシュレス決済」という。
キャリアパスポート	小学校から高等学校までの特別活動を始めとしたキャリア教育にかかわる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができる教材のこと。
クラウドストレージサービス	インターネット上でデータを保存、共有できるストレージ（データ保管庫）サービスのこと。
クラウド化	自社内に機器を設置し運用している既存のシステムをクラウドサービス（「ガバメントクラウド」の項を参照）を利用する方式に移行すること。
コワーキングスペース	自宅や会社の外で業務を行うための、共同利用スペースのこと。
コンパクト・プラス・ネットワーク	医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者を始めとする住民がこれらの生活利便施設等へ公共交通によりアクセスできるなど、福祉や防災のほか、交通なども含めた都市全体の構造を見直していく考え方のこと。

<さ行>	
サテライトオフィス	企業等の本来の事業所（本社や支社）から離れた場所（居住地の近くなど）に立地し、ICT の活用により本来の事業所などと連絡を取りながら業務を行うことができる事務所のこと。
シームレス	「継ぎ目のない」という意味で、特に ICT 分野においては、ユーザーが複数のサービスを違和感なく統合して利用できることを指す。
シェアリングエコノミー	個人や企業等が保有する遊休資産（スキルのような無形のものも含む）を他者が利用できるようにする経済活動のこと。インターネットを経由したマッチングが普及したことで、様々な分野において取引が拡大している。
シンポジウム	特定のテーマについて、複数の論者が聴衆の前で、発表・報告、討論等を行うイベントのこと。
スーパーシティ（構想）	AI やビッグデータなどの先端技術の活用と、大胆な規制改革等によって、世界に先駆けて未来の生活を先行実現する「まるごと未来都市」を、地域と事業者と国が一体となって目指す取組のこと。
スマートシティ	ICT 等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域のこと。
セルフメディケーション	自分自身の健康に責任を持ち、市販薬等を利用して軽度な身体の不調を自分で手当てすること。
<た行>	
チャネル	情報伝達のための経路や手段のこと。
デジタルアーカイブ化	図書、美術品・博物品、歴史資料等の知的資産をデジタル化し、電子情報として共有・利用できるようにすること。
デジタルデバイド	ICT を使える人と、そうでない人との間で生じる、地域的・身体的・社会的な格差及びそれに伴う社会問題のこと。
デジタルトランスフォーメーション (DX)	デジタル技術を社会に浸透させることで、生活やライフスタイル、社会の構造などの既存の価値観や枠組みを覆し、人々の生活をより良いものへ変化させていくこと。行政では、デジタル技術を活用して住民の利便性を向上させるとともに、デジタル技術や AI 等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上につなげていくことが求められる。本用語は一般的に「DX」と表記される。
デジタルマップ	土地や施設等に関する情報をデジタル化し、地図上で管理できるようにした仕組みのこと。
テレワーク	Tele(遠隔)と Work(仕事)を組み合わせた造語。ICT を活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。在宅勤務、サテライトオフィスでの勤務等がある。

ドローン	遠隔操作や自動操縦などにより飛行する無人航空機のこと。
<b>&lt;な行&gt;</b>	
ニッチマーケット	少数の需要に対してモノやサービスを提供する市場のこと。ICT によるコスト構造の変革により、これまでは採算が合わなかった少数のニーズに対して、多品種少量生産が可能となった。
<b>&lt;は行&gt;</b>	
ぴったりサービス	国が提供するオンラインサービスで、居住する市区町村の行政手続の検索や、オンライン申請等を個人のスマートフォン等を用いて行うことができるもの。
フィーダー	フィーダー（feeder）とは、河川の支流という語源から、交通機関の支線のことを指す。幹線交通に交通を集中したり、幹線交通から交通を分散したりする役割を持つ。鉄道の場合には、バスやタクシー等の端末交通が、道路では幹線道路に接続する補助幹線道路や区画道路がこの役割を担う。
プッシュ型の給付	「プッシュ型」は、利用者が能動的な操作や行動を行わずに、提供する側から自動的に行われるタイプの技術やサービスを指す。プッシュ型の給付とは、申請手続なしに対象者に給付すること。
プラットフォーム	ICT を利用するための基盤となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク事業等。また、それらの基盤技術のこと。
ブロードバンドサービス	光ファイバーやケーブルテレビなどによって、高速・超高速通信を可能とするサービスのこと。
プロジェクト型学習	プロジェクトを遂行する中で、自ら問題や新しい視点を発見し解決・実施する能力を養うことを目的とした学習方法のこと。
ベースレジストリ	公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される、人、法人、土地、建物、資格等の社会の基本データであり、正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベースのこと。
<b>&lt;ま行&gt;</b>	
マイナンバーカード	日本国内の全ての住民に指定・通知されているマイナンバーと、本人の情報（顔写真、氏名、住所、生年月日、性別）が記載されたカードのこと。
マイナンバー制度	マイナンバーを活用することで、社会保障、税、災害対策の3分野で、複数の機関に存在する個人の情報同一人の情報であることを効率的に確認し、行政手続の利便性・質の向上を図る制度のこと。
<b>&lt;ら行&gt;</b>	
ラストワンマイル	元々は通信業界で使われていた用語で「利用者に対し、通信接続を提供する最後の区間」を意味する。物流業界においては、「最終拠点から利用者までの配送区間」のこと。

ランニングコスト	建物や設備、システム等の運営や維持管理のために要する費用のこと。対して、建物の建設や、設備、システム等の導入時の費用のことを「イニシャルコスト」という。
リテラシー	本来は、識字力（文字を読み書きする能力）のこと。「情報リテラシー」や「ICT リテラシー」のように、その分野における知識、教養、能力を意味する言葉としても使われる。
レコメンド	「おすすめ」、「推奨」という意味の言葉で、個人のニーズや嗜好に応じたコンテンツ等を提案すること。
レンタルスペース	期間を定めて貸し出される多目的室や会議室のこと。
<b>&lt;わ行&gt;</b>	
ワーキンググループ	特定のテーマについて、議論や検討を行うために設けられたグループのこと。
ワークショップ	参加者同士で話し合いながら、理解を深めたり、案を作り上げたりするための会議の進め方のこと。
ワーケーション	Work(仕事)と Vacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

## Web アンケート結果

### (1) 調査概要

#### ① 目的

「スマートシティ」という言葉や高松市のスマートシティ・デジタル化に関するこれまでの取組への認知度を把握するとともに、今後のスマートシティ・デジタル化に関する取組への期待や不安、実現してほしいサービス等について、意見を把握することを目的として、Web アンケート調査を実施した。

#### ② 調査対象

高松市在住者を想定（高松市在住者でなくても回答することは可能）

#### ③ 調査方法

WEB アンケート方式

※高松市ホームページ上に、本アンケートの特設ページを設け、回答フォームへのリンクを掲載。

※SNS（Twitter、Facebook）利用者に対しては、高松市公式アカウントによる告知と、別途開設した広告用アカウントによる高松在住者へのターゲティング広告を実施し、上記特設ページへの誘導を図った。

#### ④ 調査期間

令和3年9月24日～10月11日

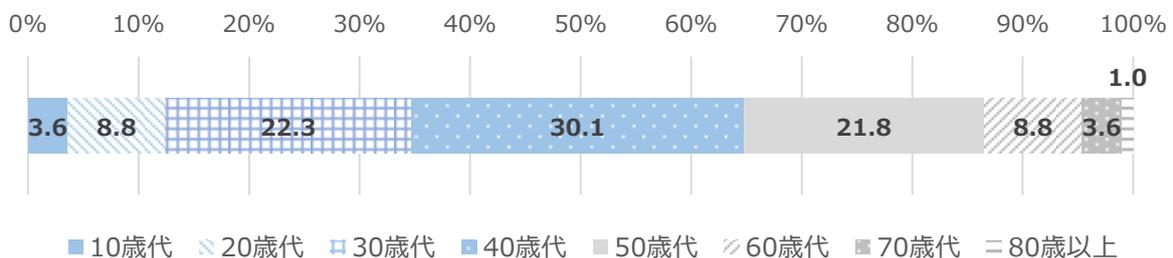
#### ⑤ 回収数

193件

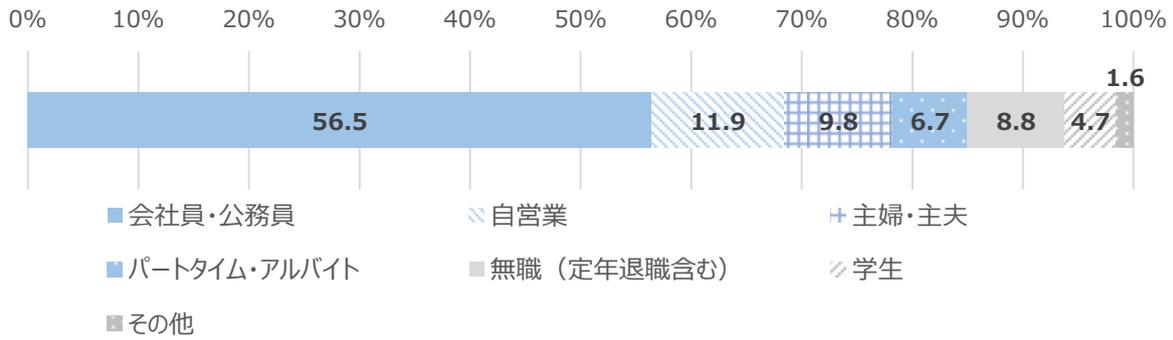
### (2) 調査結果概要

#### ① 回答者の属性

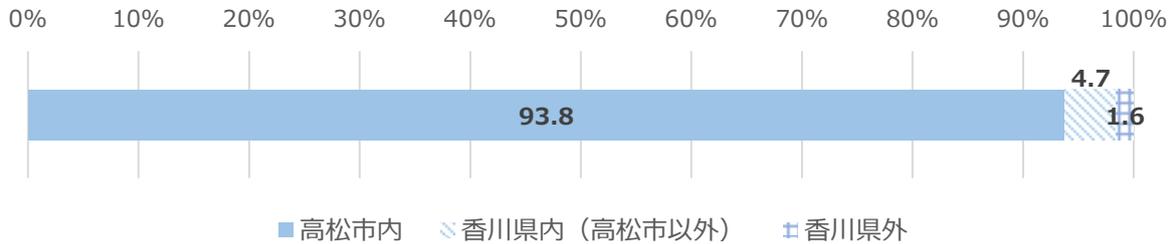
##### 1) 年齢（1つ選択） N=193



## 2) 職業（1つ選択） N=193

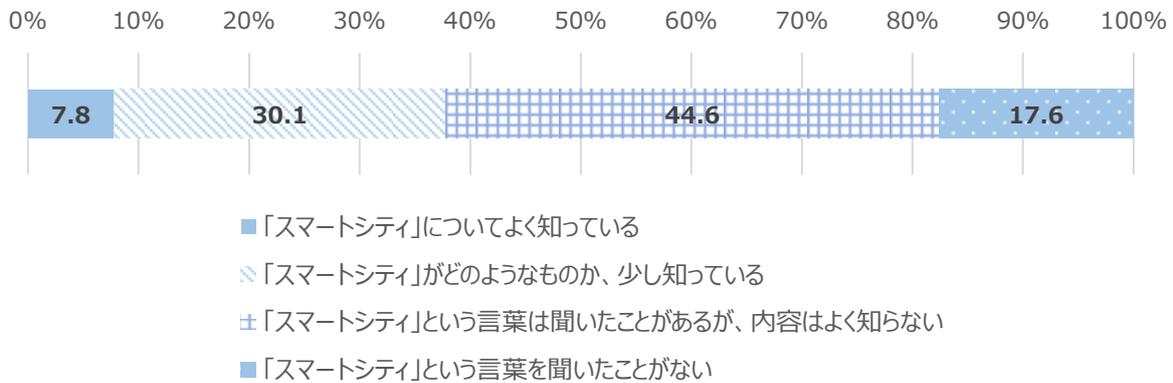


## 3) 居住地域（1つ選択） N=193



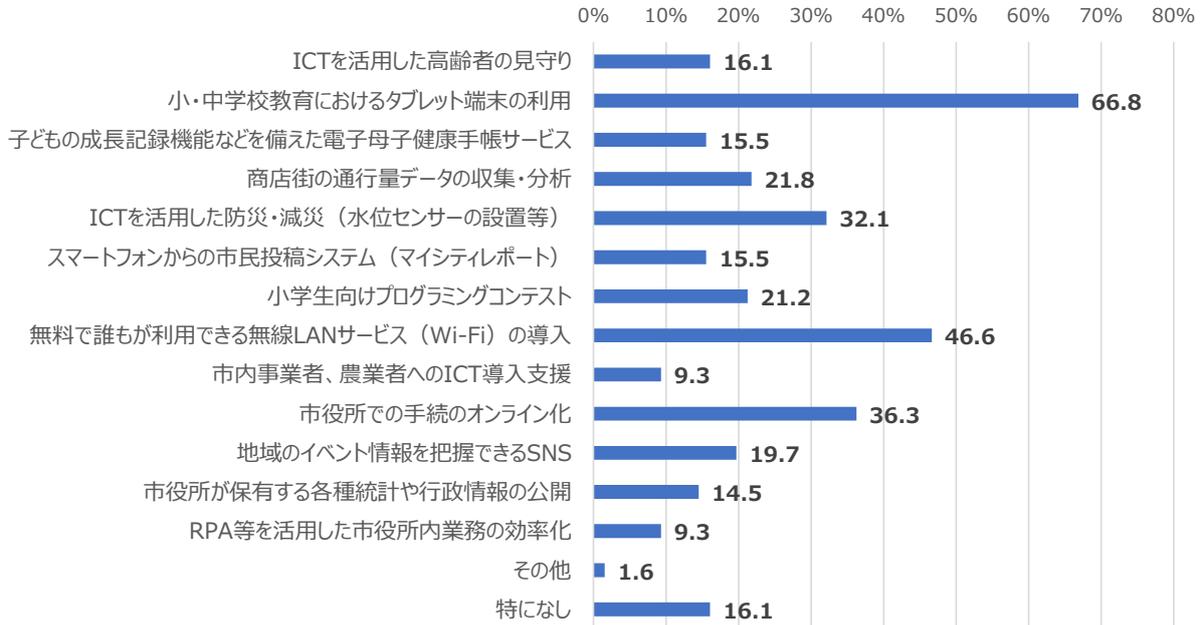
## ② これまでのスマートシティ・デジタル化の取組について

### 1) 「スマートシティ」についてどの程度知っているか（1つ選択） N=193



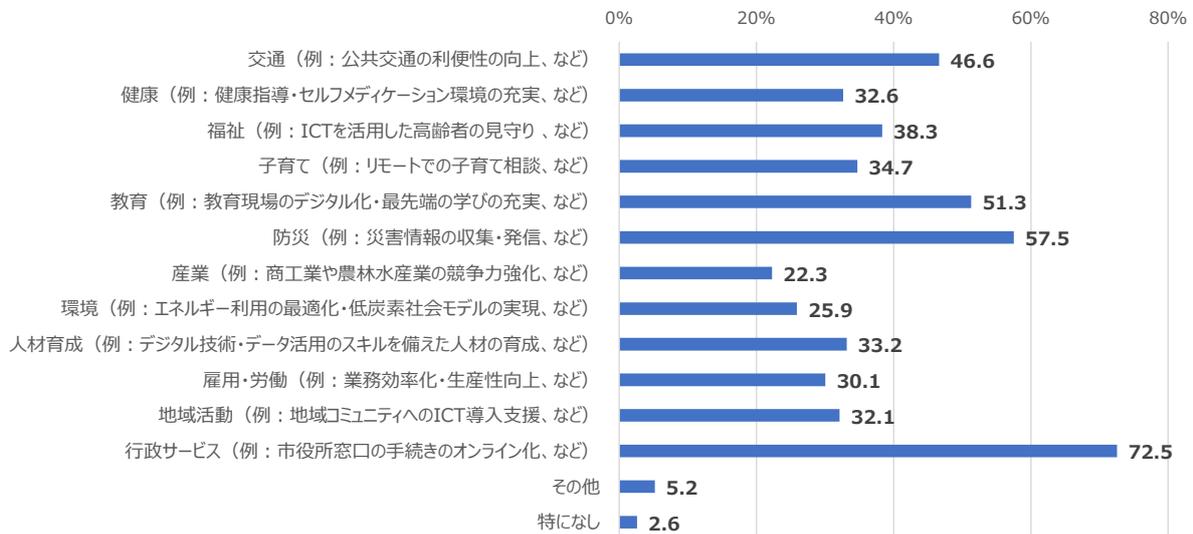
## 2) これまでの取組の中で知っているものや利用したことがあるもの（複数選択可）

N=193

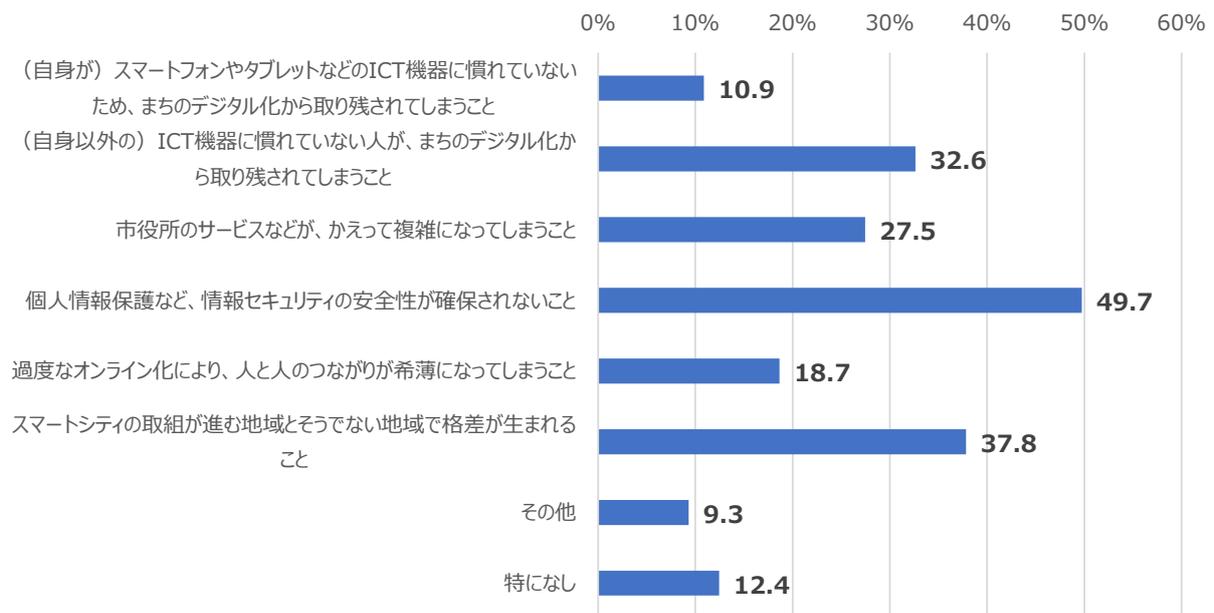


## ③ 今後のスマートシティ・デジタル化の取組について

### 1) 今後の高松市の取組の中で、力を入れてほしい分野（複数選択可） N=193



## 2) スマートシティやデジタル化の取組について不安に思うこと（複数選択可） N=193



## 若者ワークショップ結果

### (1) 実施概要

#### ① 目的

これからのスマートシティ・デジタル化の取組に期待すること、実現してほしいサービス等について、高松市内の大学、高等専門学校に在籍する学生からアイデアや意見を聴取することを目的として実施した。

#### ② 参加者

香川大学、高松大学、香川高等専門学校に在籍する学生

【参加者】(50音順、敬称略)

氏名	所属	氏名	所属
石川凌大	香川大学	藤井夢	高松大学
河井弥佑	香川高等専門学校	藤島汐里	香川大学
久米佑輔	香川大学	松田知樹	香川大学
黒口颯真	香川高等専門学校	村川彩人	高松大学
塩尻遼太	香川高等専門学校	森康喜	香川大学
竹内歩夢	香川高等専門学校	山本里緒奈	香川大学
久松史奈	高松大学	横井里音	高松大学

※ほか数名

#### ③ 実施方法

リモート会議ツールを用いたオンラインワークショップ

※希望に基づいて3つのディスカッションテーマ（防災、教育・子育て、福祉・健康）を設定し、3グループに分かれてディスカッションを実施した。

#### ④ 実施日時

令和3年11月11日（木）17:00-18:30

#### ⑤ プログラム概要

プログラム	内容
ディスカッション	①高松市のスマートシティの取組で知っていること ②（高松市に限らず）スマートシティ、デジタルを使った市民サービス等について、関心をもったこと、高松市でもできたらいいなと思うことなど ③グループのディスカッションテーマについて、高松市でどんなことが実現したらよいか（複数アイデア出し） ④上記③の中で1、2に絞って、具体的な内容や取組の方法等について掘り下げ
ディスカッション 内容の発表	各グループで議論した内容を全体で共有

## (2) 実施結果概要

### ① 高松市のスマートシティの取組で知っていること

#### 【主な意見】

- 「スマートシティ」という言葉は知っていても内容はよく知らない、周りの知人も同様
- 市内小中学校の電子黒板、タブレット端末を活用した授業
- 水位センサーなど防災分野の ICT 活用
- ウェアラブル端末を用いた福祉・健康分野のサービス
- バスの代わりにタクシーを走らせるバタクスの検討をしている
- 産学官連携によって、様々な取組が進められている
- オープンデータ高松で様々な情報が公開されている

### ② スマートシティやデジタルの取組について関心を持っていること、高松市でも出来たらいいなどと思うことなど

#### 【主な意見】

#### ○デジタルデバイドに関する意見

- デジタルにあまり詳しくない人が取り残されてしまわないか心配
- 高齢者の家には Wi-Fi がない場合も多く、ウェアラブル端末が普及しても、活用できない人もいるのではないか

#### ○今後の具体的取組に関する意見

- 都心ではオンライン診療が普及しつつあるが、香川県ではまだ発展途上
- 自身の研究（VR）を福祉分野に応用したい
- ICT を活用した食品ロス対策や障がい者支援はできないか
- デジタルサイネージを用いて迅速な情報発信ができないか
- 災害時にスマホアプリで避難経路を案内できれば良いのでは
- 海面上の浮体センサーにより情報収集を行い、防災に活用できないか

### ③ 担当分野について、これから高松市で実現してほしいこと（具体的内容、取組の方法等）

#### 1) 防災

- 高精度のセンサーにより、水位の上昇や地面の隆起の情報を迅速に収集し、災害発生前に危機を知らせることができれば、災害対応が上手くいくのではないか。
- スマホだけでは、高齢者には上手く情報が届かない恐れがある。屋内に人が残っていることを知らせるセンサーを設置したり、防災無線のような一方向の情報発信ではなく、双方向の情報交換できるような仕組みを構築することが必要である。
- 高齢者の中には、自分だけで避難できない方もいる。そういった方や逃げ遅れた方の避難のために、タクシーと行政が連携し、避難を助けるようなことができれば良い。
- 災害が起きた際も、自分だけは安全（大丈夫）と思ってしまう若者も多い。高松市も南海トラフの地震では大きな被害が出るのが想定されており、VR 等を用いて被災する恐れがあることをより実感できるようにすれば、防災意識が高まるのではないか。

## 2) 教育・子育て

- 高松市では市内小中学校に電子端末や1人1台のタブレット端末が配備され、教育のICT化に向けた環境が整備されたところであるが、児童生徒本人だけでなく教職員にもデジタル機器への得意・不得意がある。教職員に対する研修も必要である。
- デジタルを活用した効果的な学校教育の実現に向けて、デジタルに強みを持つ企業や市民等との連携を促進する仕組みづくりが求められる。
- 特に、最近の学生（大学生・高専生含む）は、動画作成や動画を用いた情報発信にも慣れた人が多く、ボランティアや有償（公募により選定）で、教育用の動画を作成してもらう等の連携が考えられる。
- 行政への学生の主体的な参画を促すことで、高松市に対する学生の愛着や誇り（シビックプライド）の醸成にもつながるのではないかと。

## 3) 福祉・健康

- デジタルを用いることで、高齢者、障がい者、子育て家庭など、様々な市民の生活をよりよくするためのサービスをより効果的に届けることができるようになる。
- そのためには、デジタル機器に慣れている人と慣れていない人の格差（デジタルデバイド）の解決が前提となるための、学生、中小企業、行政と連携しながら対策を講じる必要がある。
- 例えば、学生と協力してスマートフォンの使い方の啓発を行ったり、商工会議所の企業等と連携してデジタル機器の普及のための事業を行ったりするなど、行政以外の関係者との連携を強化することで効果的な取組ができるのではないかと。
- 一方で、Wi-Fiが利用できない家庭が取り残されないように、市内全域にWi-Fiを敷設するなど、ハード面の支援については、行政の役割が重要になると考えられる。
- 困難を抱えた人がネットワークにつながりやすくなる社会を作っていきたい。

### ワークショップ参加者集合写真



## 行政手続棚卸調査結果

### (1) 調査目的

高松市が市民や事業者から受付をしている申請や届出等について、行政手続のオンライン化を進めるため、各手続におけるデジタル化の阻害要因の有無を把握することを目的に、調査を実施した。

### (2) 調査対象

庁内の全部局において、年間 100 件以上かつ市民や事業者から受付をしている申請や届出等の全ての手続を対象とした。

### (3) 実施体制

スマートシティたかまつ推進協議会内の「デジタル・ガバメント推進特別ワーキンググループ」の下に、行政改革推進室、情報政策課、ICT 推進室から構成される「棚卸タスクフォース事務局」を設置し、協議会に参画する民間企業の協力を得て、調査を実施した。

### (4) 実施時期

2020 年 9 月に、庁内の全部局に調査を実施し、回答結果の集計・整理を行った。調査結果を踏まえ、代表的な業務を対象に、10 月から翌年の 1 月にかけて、個別ヒアリングを追加で実施し、デジタル化に向けての課題等の確認を行った。

### (5) 分析結果の概要

業務ごとに「押印状況」「対面有無」「本人確認」「添付書類」「手数料」の項目への該当の有無より、デジタル化のしやすさを以下の通り分類した。

#### ① 業務ごとのデジタル化の難易度の分類

##### 【1年以内：すぐに実現出来そうなもの（A 判定）】

A：対面や原本添付が必須ではなく、すぐにデジタル化できそうな業務

##### 【2～3年：市の条例や運用等を変更することで実現出来そうなもの（B 判定）】

B1：運用や慣行の見直しで、申請フローが簡素化され効果が見込めそうな業務

B2：添付の原本不要などで、申請フローの一部が簡素化され効果が見込めそうな業務

B3：添付の原本要であるが、調整することで申請フローの一部が簡素化され効果が見込めそうな業務

##### 【4～5年：国の法制度等を変更することで実現出来そうなもの（C 判定）】

C1：完全なデジタル化は無理だが、条件付けにより申請フローの一部が簡素化され、効果が見込めそうな業務

C2：法律を変えなければどうにもならない業務

## ② 局別にみたデジタル化の難易度別の行政手続

上記のデジタル化の難易度別に、各局が実施している行政手続の数を整理した結果、以下の通りとなった。

局別にみたデジタル化の難易度別の行政手続の件数

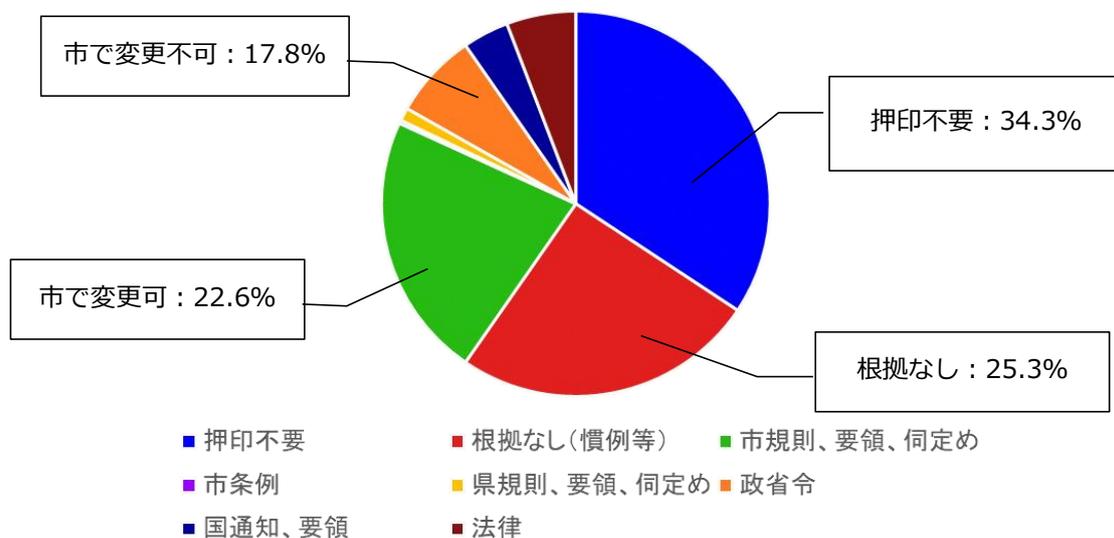
分類	健康福祉局	都市整備局	市民政策局	財政局	消防局	教育局
A	18	5	4	7	11	7
B	B1	31	2	5	3	3
	B2	34	13	4	15	3
	B3	41	14	4	3	0
C	C1	10	0	8	0	1
	C2	10	16	17	5	10
分析対象 手続種類数	144	50	42	35	28	19

分類	創造都市推進	環境局	農業委員会	総務局	出納室	合計
A	4	8	0	4	0	68
B	B1	3	0	0	1	54
	B2	8	3	3	0	90
	B3	2	0	0	1	68
C	C1	0	0	0	0	19
	C2	1	1	4	0	65
分析対象 手続種類数	18	12	7	6	3	364

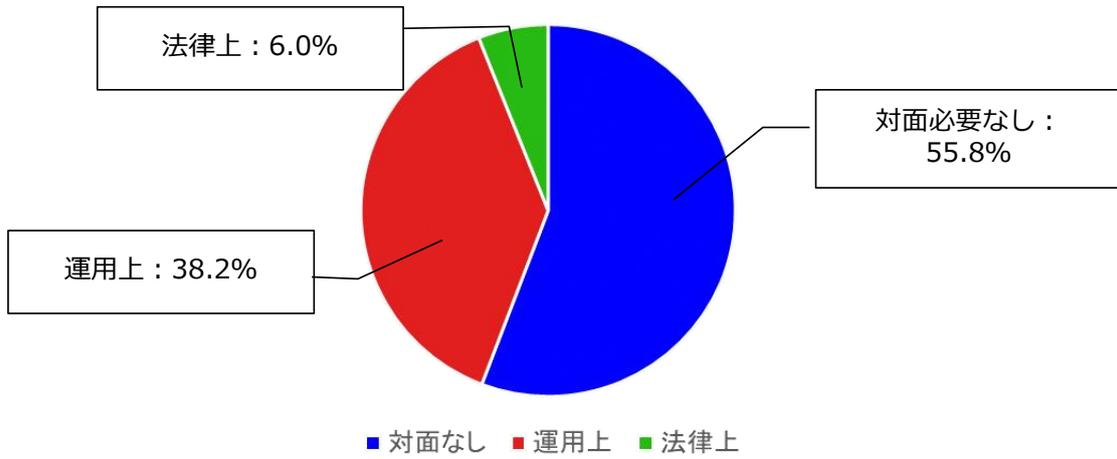
## ③ 調査結果詳細

調査対象である行政手続 364 件の「押印状況」「対面有無」「本人確認」「添付書類」「手数料」の各項目への該当状況は以下の通りとなった。

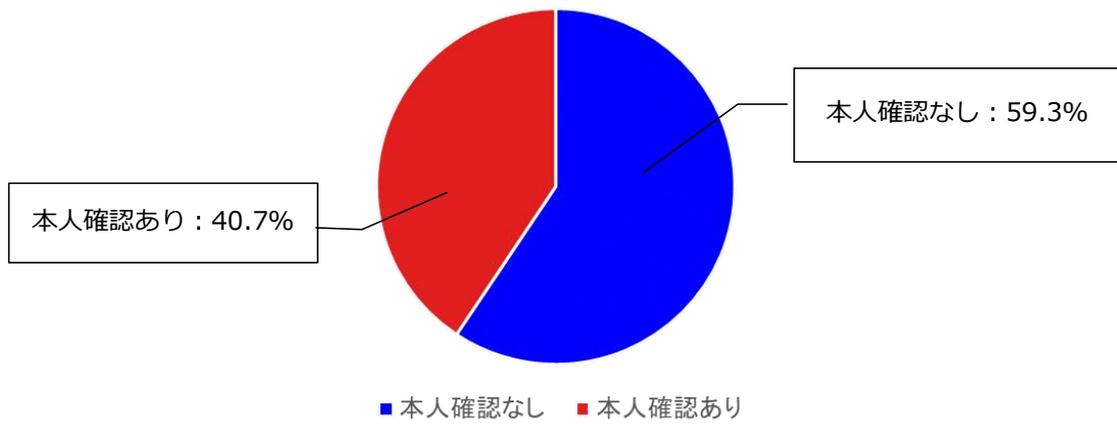
押印が必要な行政手続



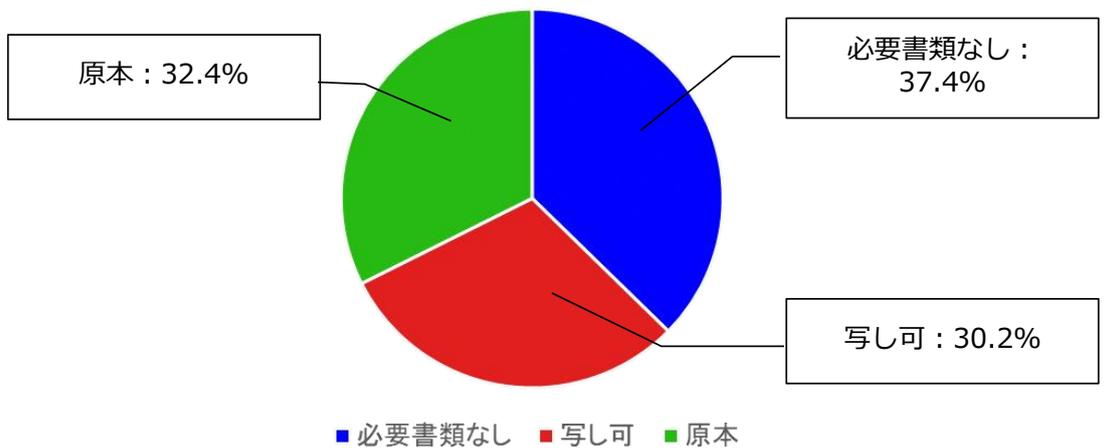
### 対面が必要な行政手続



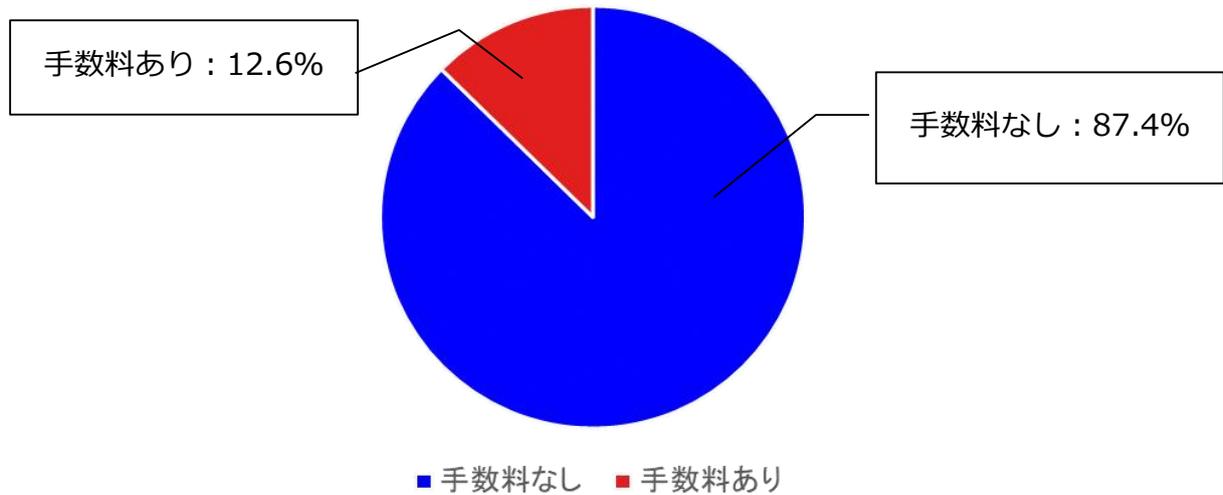
### 本人確認が必要な行政手続



### 添付書類が必要な行政手続



### 手数料が発生する行政手続



### 参考：DX 推進の工程表

取組内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度
申請・届出のデジタル化	障害要因（押印や対面等）解消を継続（国県の法制度の動向を踏まえ対応）		
行政手続棚卸 地方公共団体が優先的にオンライン化を推進すべき手続	A判定の業務改革 A判定のデジタル化	B判定の業務改革 B判定のデジタル化	C判定の業務改革 C判定のデジタル化
	子育て・介護びったりサービスデジタル化	基幹系システムとの接続環境の整備	基幹系システムとのデータ連携の実現
	手数料等オンライン決済	オンライン決済基盤検討	オンライン決済基盤導入
ICTの活用による業務改革	業務改革ツール調査	業務改革ツール実証	業務改革ツール導入
ICTの活用による窓口サービスの高度化	ネット予約システムの検討	ネット予約システムの導入	
マイナンバーカードの普及促進と活用機会の創出	引越しワンストップサービス 広報・取得促進活動		
デジタル人材育成・確保	独自利用の調査・研究	独自利用実証	
行政デジタル化に最適な情報システムの整備	DX研修(棚卸担当等) 庁内職員配置等検討	DX研修(棚卸担当等) 採用活動の実施	DX研修(棚卸担当等) 効果検証、採用継続
	業務システム標準化・ガバメントクラウド移行検討	業務システム標準化・ガバメントクラウド移行	業務システム標準化・ガバメントクラウド順次移行

▶ 内部検討・実証実験  
▶ 事業開始  
▶ 継続事業







## **スマートシティたかまつ推進プラン【2022～2024】**

発行：2022年 3月

編集：高松市 総務局 デジタル推進部 デジタル戦略課

〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号

TEL 087-839-2172 / FAX 087-839-2169

E-mail [digital\\_sct@city.takamatsu.lg.jp](mailto:digital_sct@city.takamatsu.lg.jp)